**2022年10月改訂(第8版)
*2016年 9 月改訂
貯法：室温保存
注意：本剤は滅菌製剤のため、開封後は速やかに使用すること。

日本標準商品分類番号		872616	
承認番号	22100AMX00752		
薬価収載	2009年5月	販売開始	1998年4月

[効能・効果及び用法・用量]

効能・効果	用法・用量
手指・皮膚の消毒	通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落した後、ベンザルコニウム塩化物0.05%溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。 術前の手洗の場合には、5〜10分間ブラッシングする。
手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01〜0.025%溶液を用いる。
感染皮膚面の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01%溶液を用いる。
手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.05%溶液を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。
腟洗浄	ベンザルコニウム塩化物0.02〜0.05%溶液を用いる。
結膜嚢の洗浄・消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01〜0.05%溶液を用いる。

0.05w/v%

滅菌製剤

500mL

外用殺菌消毒剤

日本薬局方

ベンザルコニウム塩化物液

オスバン®消毒液0.05%

OSVAN® 0.05%

0.05%

[組成] ベンザルコニウム塩化物、0.05w/v%水溶液
[性状] 無色〜淡黄色澄明の液で、特異なにおいがある。

**製造販売元 富士製薬工業株式会社
富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地

[使用上の注意]

1. 重要な基本的注意
1) 本剤は、濃度に注意して使用すること。
2) 炎症又は易刺激性の部位(粘膜、陰股部等)に使用する場合には、通常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。
3) 本剤を希釈して使用する場合は、調製後滅菌処理すること。

2. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
過敏症：発疹、瘙痒感等の過敏症状(頻度不明)があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。

3. 適用上の注意
(1) 人体
1) 投与経路：経口投与しないこと。浣腸には使用しないこと。
2) 使用時：
ア. 皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。
イ. 粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと(全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある)。
ウ. 密封包帯、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。

(2) その他
1) 調製方法：
繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。
2) 使用時：
ア. 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合は、十分に洗い落してから使用すること。
イ. 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落してから使用すること。
ウ. 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。
3) 器具等材質：
ア. 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。
イ. 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので、使用しないこと。

[薬効薬理]

(1) 本剤は芽胞のない細菌、カビ類、すなわちグラム陽性・陰性菌のみならず、真菌類にも有効であるが、結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。(2) アルキル側鎖が$C_{12}H_{25}$のベンザルコニウム塩化物は有機物存在下での殺菌力が優れている。
(ベンザルコニウム塩化物の分子式は〔$C_6H_5CH_2N(CH_3)_2R$〕Clで、本剤の場合、Rは$C_{12}H_{25}$が80〜85%、$C_{12}H_{25}+C_{14}H_{29}$が98%以上である。)

瓶 :PP
キャップ:PP
外装フィルム:PP

12210